



# FAX飛躍

2019年12月28日

## JR東労組東京地本青年部

### 労働組合が格差ベアを要求！20春闘も官製春闘か！

### 20春闘にむけた動きが加速しています！

## ベア個人差拡大要求検討

### トヨタ労組、士気向上狙い

トヨタ自動車労働組合は二〇二〇年春闘で、賃金を底上げするベースアップ（ベア）にあたる賃金改善分について、組合員の実績や取り組みに応じてメリハリをつけて配分するよう会社側に要求することを検討する。労組から求めることで、電動化や自動運転といった業界の大変革期に対する問題意識を経営側と共有し、賃金や働き方の改善につなげたい考えだ。

トヨタのベアの配分は、従来も人事評価に基づいて組合員間で差があった。今回は、評価に応じた配分の範囲や程度を拡大することを求め、組合としても組合員のやる気や能力を高めていくことを狙う。今後、要求方法の詳細を議論し、来年一月下旬の評議会で提案する。

### 首相7年連続賃上げ要請

安倍晋三首相は二十一日、東京都内で開かれた経団連の審議委員会のあいさつ

「ベースアップ（ベア）基本給の水準を一律に引き上げる賃上げ手法。勤続年数や年齢に応じて上がる定期昇給や、業績を反映して柔軟に増額、減額できるボーナスと区別される。賃金体系全体を底上げするため、恒常的な人件費の増加要因となり、経営側は実施に慎重となる傾向がある。ベア額は業績や物価の上昇などを参考に決めている。

「物価の上昇などを参考に...」と書かれているけど、物価は消費税など、評価に関係なく上がっていくので、ベアに差をつけていくのが...

7年連続の政府による賃上げ要請。「所得の引き上げ」を政府は目指しているが、ベアに格差をつけることは、全体の所得の引き上げにならない...

各社に横並びを脱却して独自の交渉を促す意図などから、ベア回答額を非開示とする方針に転換。一九九年には、組合もベア要求額を明示せず交渉する方式にあらためた。

一方、会社側は交渉で一律の賃上げを見直したい意向を表明。三月の受給時には冬の一時金を回答せず、十月に労組が求めた満額で決着するまで交渉を継続するなど、労使で変革期の働き方や報酬のあり方を模索している。

で、「大事なものは人材への投資だ。来年の春も大いに投資してもらいたいことを期待している」と述べ、春闘での賃金引き上げへの協力を経済界に呼び掛けた。首相は七年連続となる。

安倍首相は賃上げの具体的な数値目標には言及しなかったものの、「あくまでも参考だが、（一九六四年の）東京五輪時の賃上げ率は12%だった」と話し、高い賃上げ率に期待した。所得を引き上げて消費の底上げにつなげ、来夏の東京五輪以降の景気悪化を防ぐため、経済界に協力を求めた形だ。

経団連によると、一九九年は定期昇給と月給の水準を引き上げるベースアップ（ベア）を合わせた賃上げ率は、2.43%だった。（中沢幸彦）

トヨタ自動車労働組合は来年2020年の春闘において、ベースアップにあたる賃金改善分について【社員の人事評価に基づいて、配分の範囲や程度を拡大すること】を要求として検討していることが明らかになりました。この提案が妥結された場合、中堅クラスで人事評価の低い社員だとベアがゼロになる場合もありえる内容になっています。この間、地本青年部は「ベアに評価を持ち込めば、良い評価を目指して競争が激しくなり、鉄道業として必要なチームワークが崩壊し、安全性が低下する」として格差ベアに反対してきました。トヨタ労使の動きが春闘全体を左右します。鉄道業にふさわしいベアを考えるために今年も賃金学習会を取り組みます！

「所定昇給額を算出基礎としないベア」の実現に向けて、鉄道業にふさわしいベースアップについて考えよう！